サクラの季節が巡ってきた。「桜」を前面に出して活動する日本風景街道がある。日本の原風景「枝垂れ桜の咲く里への回り道」（新潟県上越市～糸魚川市）と、「合掌・さくら」飛越街道～世界遺産をめぐる道～（岐阜県高山市～富山県南砺市）だ。福島県・浜通りを世界一の桜街道にという「ふくしま浜街道ハッピーロード」の桜プロジェクトは動き始めたばかりだが（2～3面）、こちら2つのルートでは、咲き誇るサクラが観光客の訪れを待つ。

日本風景街道

サクラ色に染まる春の風景街道を行く楽しみ

枝垂れ桜の咲く里への回り道

上越市を流れる関川。対岸の病院の入院患者を元気づけようと住民や国、県、市が連携して河川敷一杯にコスモスの種を撒き咲かせた活動が地域連携の原点。以来、地域の環境への取り組みが続く。活動の中心を担うのがＮＰＯ「徳合ふるさとの会」（塚越秋三代表）だ。

道の駅「うみてらす名立」から道の駅「能生」にかけての国道8号（日本海夕日ライン）と、周辺の県・市道には古くから枝垂れ桜や河津桜などが多く、地域の名所になっている。これを景観資源として活かし、地域の環境整備につなげようというのが当地の風景街道の目的だ。同ＮＰＯはじめ地域団体や自治会、自治体など20団体がパートナーシップに参加している。

日常の活動は、ルート内の景観や道路環境を改善するため、住民と話し合って共同で障害樹木を伐採し、跡地に枝垂れ桜の苗木を植える。伐採した樹木や枝木をチップにして土に返す再資源化などだ。

伐採や植樹のほか、これまでに将来計画策定のワークショップを開催し、枝垂れ桜ルートの案内板を設置。「枝垂れ桜の花街道を巡るハイキング」や「立ち止まる風景 徳合千本枝垂れ写真展」、写真コンテスト、古民家ギャラリー&カフェなど、多彩なイベントも開催してきた。

同ＮＰＯは、地域全体を桜色に染める「桜の里」構想を軸に、活動が上越全域に広がることを願っており、「目で見る心のふるさとづくり」を目指している。「目で見る」とは地域の景観そのものだ。生活道やその周辺に四季折々の草花が咲き乱れ、ゴミひとつ落ちていない地域を実現したい。塚越さんは「伝統や文化、慣習を見直して、出来るだけ復興させたい。昔のように、人との交流、協力などが当たり前に出来ていた、活力ある地域を取り戻したい」と話している。桜の見ごろは4月中、下旬。

ロゴマークはコシノジュンコさんが手がけ、日本の象徴富士山をモチーフに、歴史や文化が道路を介して未来へ続いていくことを表現した。

枝垂れ桜の花街道を巡るハイキングのひとこま

立ち止まる風景写真コンテストの受賞作から

サクラをテーマに活動

合掌造りと荘川桜

岐阜県白川郷と富山県五箇山の合掌造り集落を中心とする一帯は1995年、ユネスコの世界遺産に登録された観光名所だ。同時に両集落を通る国道156号や304号、東海北陸自動車道の沿線は、日本風景街道「合掌・さくら」飛越街道のルートでもある。

合掌造り集落は、古来受け継がれてきた独特の建築様式と共に、日本人の生活の原風景を残している。ルート名は、その合掌造りと、当地を代表する「荘川桜」にちなんで命名された。

荘川桜は、御母衣ダムの建設で湖底に沈む運命にあった。しかし、桜を愛する人々の強い意志で保存が決まり、世界でも例のない大移植事業によって湖畔の現在地に移された。命を救われた桜は、水没した古里を見守りながら毎年、美しい花を咲かせる。周辺では子桜、孫桜の並木なども楽しめる。見ごろは4月下旬～5月上旬。

活動の中心は世界遺産合掌街道実行委員会や飛越街道協議会。地域には合掌造り集落や桜などの並木、ダム湖や池からの景観、どぶろく祭りなど古くからの祭礼行事、温泉や観光施設など、様々な資源や文化が豊富だ。自然・歴史・文化・風景などを通し「訪れる人」と交流して地域活性化を図り、豊かな自然環境を保全しながら美しい空間の形成を目指すのが目的。

道路沿線の安全点検や美化活動はもちろん、荘川桜を街道沿いに植樹する活動や、地域づくりのシンポジウム、学習会も開催している。同協議会は「心のふる郷を探すみち」「日本人の心のみなもとが息づくみち」の保全を目指す。

住民の熱意で移植され今は湖畔を彩る荘川桜

チューリップが華やかな合掌造りの集落

ニュースライン

■日本橋に春の花

江戸時代は五街道、現代では国道の起点として知られる日本橋。ここは日本風景街道「江戸・東京・みらい街道」に登録されている。起点という特色を活かし、地域と連携する試みが進んでいる。

ＮＰＯ法人「はな街道」は、日本橋・中央通り約２㌔㍍の沿道で、花壇の花植えに取り組む。風景街道の活動で縁のある地域に声をかけ、実現したのが花の交流だ。昨年12月、合掌造り集落を核とする「合掌・さくら街道」の主要メンバー富山県南砺市から、チューリップの球根1000個が日本橋に贈られ「花の広場」に植え込んだ。

１月には「渥美半島菜の花浪漫街道」＝**写真**＝で、菜の花で農地再生に取り組む愛知県田原市のＮＰＯ法人「田原菜の花エコネットワーク」のメンバーが日本橋を訪れ「滝の広場」などに50株の苗を植え、菜の花の切り花と観光パンフを歩行者に配布した。

ＮＰＯ「はな街道」は今後、交流先を広げるとともに、「春の日本橋まつり」とのタイアップなど交流の充実を図る。

■奈良と大阪を結ぶ古道

日本書紀の推古天皇21年（613年）の条に「難波より京に至る大道を置く」と記述があり、これに従えば今年は日本最古の官道が出来て1400年ということになる。

現在の国道166号、日本風景街道「悠久の竹内街道」がその道の多くを占めると考えられ、奈良県や関係自治体はこれに合わせて観光客誘致を図る方針だ。

古代の大陸との外交の道、物資を都へ運ぶ経済の道、仏教伝来の信仰の道など、この道が歴史上に持つ意味は大きい。本紙ルートプレスも次の第38号で取り上げる予定。